

平成30～34(2018～2022)年度 取組み内容及び評価指標

北九州市立美術館

| 分類 | 項目 | 5カ年計画(5カ年の取組み) | 平成30年度の取組み | 評価指標 |
|-------------------------|-------------------------------|--|---|---------------------------------|
| 1 作品 ～資料収集・環境管理・保存～ | (1) 収集活動の継続 | 開館以来の収集方針や所蔵内容を踏襲しながら、持続可能な収集活動を目指す。収集対象は、下記の分野に重点を置く。 ○現代の多様性を示す優れた作品 ○地域の美術史を構築する上で欠かせない作品 ○近現代美術史の展開をたどる既存コレクションの充実・補完 | ①既存コレクションを充実・補完するための作品・関連資料を収集する。 ②平成30年度の自主企画展にあわせて、青柳喜兵衛に関連する作品・関連資料を収集する。 | ○美術作品の収集内容 |
| | (2) 作品修復、作品保管環境の整備 | 所蔵作品・資料の管理に必要な保管環境を整備し、必要に応じて作品修復を行う。 | ①青柳喜兵衛の作品など、緊急性の高い作品から順次修復を行う。 ②日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認する。 | ○修復作品の内容・選定理由 ○収蔵庫の環境整備状況 |
| | (3) 美術資料・図書の一括管理 | 当館所蔵の作品及び図書データベースを整備し、開館50周年となる2024年の一般公開を目指す。 | ①作品データベースの資料作成、精査を行う。 ②図書データベースの資料作成、精査を行う。 | ○データベースの整備と公開に向けた取組みの状況 |
| 2 公開 ～調査研究・展覧会～ | (1) 新鋭作家の継続的な紹介と評価 | 企画展やguest roomを通じ、新収蔵や研究発表を見据えた新鋭作家の調査を行う。 | ①guest room第3回展、石川直樹展を開催する。 | ○作家についての調査内容 |
| | (2) 所蔵作家のアーカイブ整備、研究論文・口頭発表 | 所蔵作家に関する対面調査、資料収集を蓄積し、研究論文、口頭発表等を行う。 | ①森山安英、青柳喜兵衛の自主企画展にあたり、論文公開や口頭発表を行う。 | ○研究成果の件数・内容 |
| | (3) 特色ある展覧会（コレクション展・自主企画展）の実現 | 調査研究に基づいたテーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。 | ①テーマの異なる3つのコレクション展を開催する。 ②森山安英、青柳喜兵衛を紹介する自主企画展を開催する。 | ○企画の内容 |
| | (4) 他館や他機関と共同企画の実施 | 他館、他機関と協同し、連携企画展や共同調査を行う。 | ①ムナリー展、1968年展、ルオー展において、他館等との連携企画を開催する。 | ○連携の件数・内容 |
| 3 交流 ～教育普及・地域交流～ | (1) 学校と連携した学習プログラムの実施 | 教育現場や教育委員会と連携し、小中学生等が美術に触れ、楽しむ機会を広げる事業を実施する。 | ①市内の全市立小学校3年生を対象に「ミュージアム・ツアー」を実施し、対話型鑑賞を实践する。 ②学校が行う鑑賞教室や館内授業について支援を行う | ○参加校の満足度 |
| | (2) 特色あるワークショップ・講演会の実現 | 子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしたワークショップ、講演会、ギャラリートーク等を実施する。 また、複数年にわたり継続した市民参加型のアート・プロジェクトを実施する。 | ①ムナリー展と連動したワークショップを行う。 ②各展覧会で講演会やギャラリートークを行う。 ③長期ワークショップ「ぬいかけの植物園計画室」を実施する。 | ○参加者の満足度 |
| | (3) ボランティア組織の充実 | 現代の社会状況に対応した、独自の自立型のボランティア制度を構築する。 | ①新たな体制でボランティアを募集し、養成講座を実施してボランティア活動を再開する。 | ○ボランティア制度の運営状況 |
| | (4) 他館や他機関との連携 | 他館、他機関との連携を促進し、同時に連携の内容を工夫する。 | ①北九州芸術劇場と連携して、分館で開催する石川直樹展に関連したダンス公演や本館エントランスホールにおいて演劇公演を行う。 | ○参加者の満足度 |
| 4 広報 ～利用促進のための情報発信～ | (1) 現代社会に対応したマーケティング、広報戦略 | 展覧会等の傾向や予想される観客層などを分析し、SNS等も活用した効果的な広報活動を行う。 また、外国人向けの広報も充実させる。 | ①アンケート方法の見直しを行う。（回収方法等） ②各企画展において、ツイッターまたはフェイスブックを開設する。 ③旅行会社等への積極的なPR活動に努める。 ④英語版HPを作成する。 | ○広報の内容、件数 ○入館者数 ○アンケートの方法 |
| | (2) 他館や他機関との連携 | 来館促進のための連携先の確保と、連携の内容を工夫する。 また、美術館友の会の活用を図る。 | ①他館と連携した割引特典等の企画を実施する。 ②美術館友の会会報誌による展覧会情報等の発信に努める。 | ○連携の件数・内容 |
| 5 環境 ～快適なアメニティ空間の演出～ | (1) ミュージアム機能・設備の強化 | 美術館内外の環境について、館の安全確保と適正管理に努める。 また、ホスピタリティマインドの向上に努め、市民に開かれた美術館を目指す。 加えて、老朽化が進んでいるアネックス棟の整備計画の検討を行う。 | ①警備、清掃、受付・監視等の現場会議を行う。 ②アネックス棟の防水工事や設備等の不具合について、修繕計画を立て実施する。 ③美術館友の会と連携してミュージアムショップの充実に努める。 | ○実施状況 ○入館者数 |